

江戸の土地の履歴書

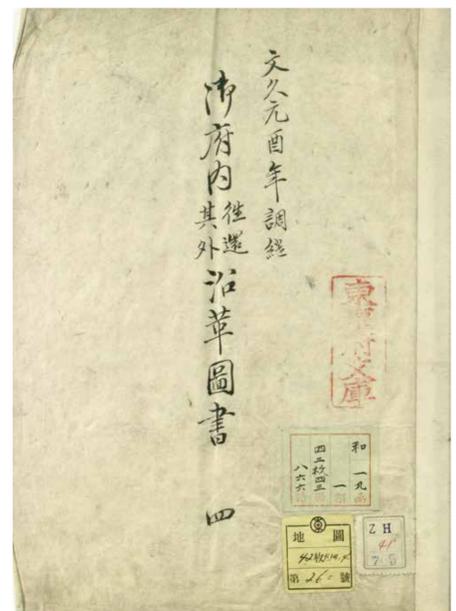
— 『御府内沿革図書』 —

江戸の道路や上水を管轄した御普請方では、幕末に至り江戸市中のエリアごとに土地一筆ごとの変遷を調査し、文字と絵図で表現した『御府内沿革図書』を編集しました。

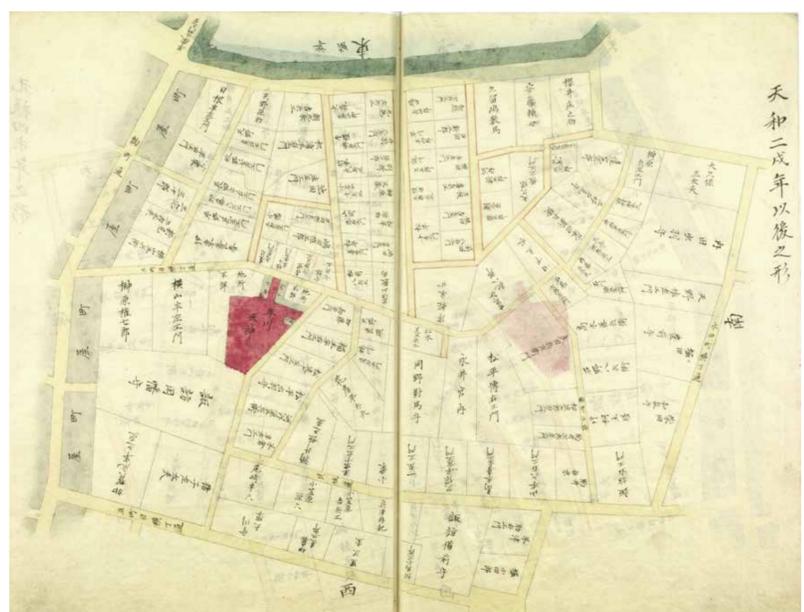
たとえば、下の図は現在の千代田区隼町・平河町一帯ですが、延宝年間(1673-1681)に松平越後守と記された広大な大名屋敷が、天和2年(1682)の図では多数の旗本屋敷に分割されています。

こうした土地利用の移り変わりがわかるため、埋蔵文化財発掘調査には欠かせることのできない基礎資料となっています。

明治初期には東京府租税課に引き継がれ、地租改正に伴う地券発行事業の参考図としておおいに活用されたことがわかっています。



御府内往還其外沿革図書四(表紙)



越後国高田藩松平家は、有名な御家騒動の1つに数えられる越後騒動により改易となり江戸の藩邸も没収、その跡地は旗本屋敷として分割された。赤く塗られた平川天神は現在の平河天満宮である。